

におい刺激が感情状態と生理反応に与える影響

1934060 名瀬玲奈 (平林ゼミ)

目的

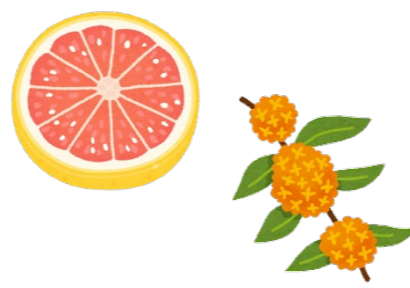
におい刺激に対する人の反応は、視覚からの情報により変化するとされており、日本人に馴染みのないにおいと同時にネガティブ情報を与えると、ポジティブ情報を与えたときより不快に感じたと報告されている。本研究では、日常生活で嗅いだことのあるにおいに対しても、同様の反応が見られるのかを検討するため、においに対する快・不快度や感情状態を測定し、生理反応も観察した。



方法

においの提示

におい刺激：①グレープフルーツ
②キンモクセイ



(蓋付シャーレに入れて準備し、30秒間提示)

提示条件：①情報提示なし (においのみ)
②におい+ポジティブ情報
③におい+ネガティブ情報

(30秒間で黙読できる情報を提示後に、においを提示)

実験方法

対象：女子大学生6名

環境：26°C、50%RH (人工気候室)

測定項目：

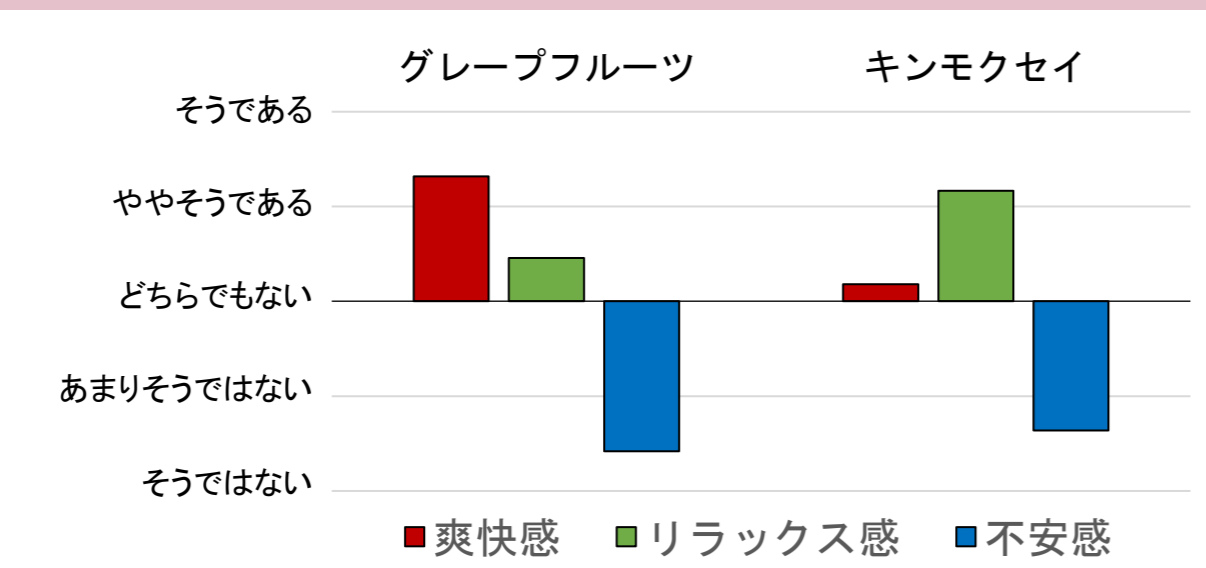
- 生理指標
 - 心電図 (RMSSD)
 - 脳波 (含有率)
- 主観評価①
 - においの有無 (2段階)
 - においの快・不快度 (9段階)
- 主観評価②
 - 感情状態 (12項目・5段階)



感情状態12項目	
爽快感	生き生きしている
	爽やかな気分である
	はつらつしている
リラックス感	すっきりしている
	リラックスしている
	ゆったりしている
不安感	落ちついている
	穏やかな気分である
	不安である
不安感	思わずらっている
	くよくよしている
	心配である

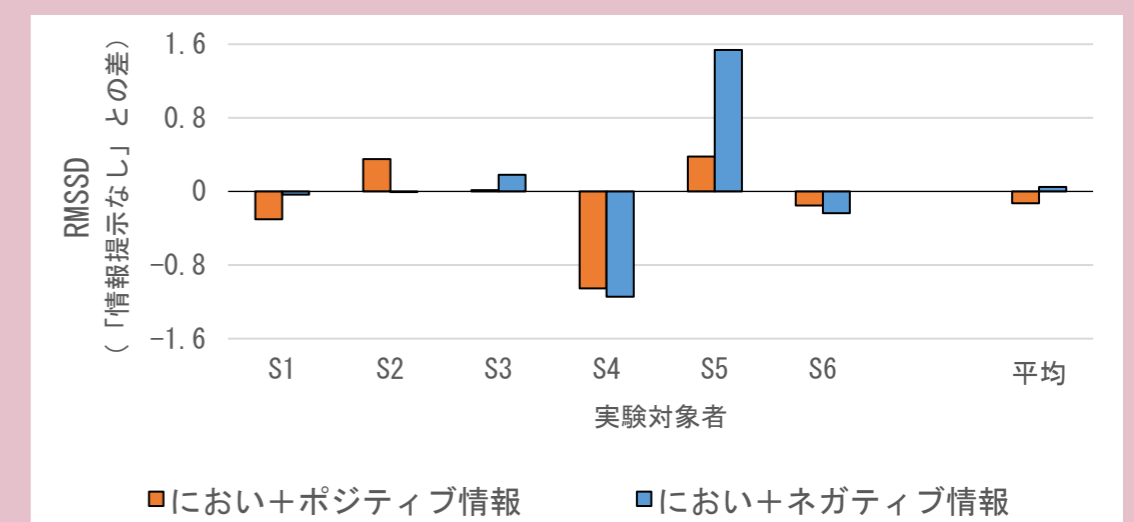
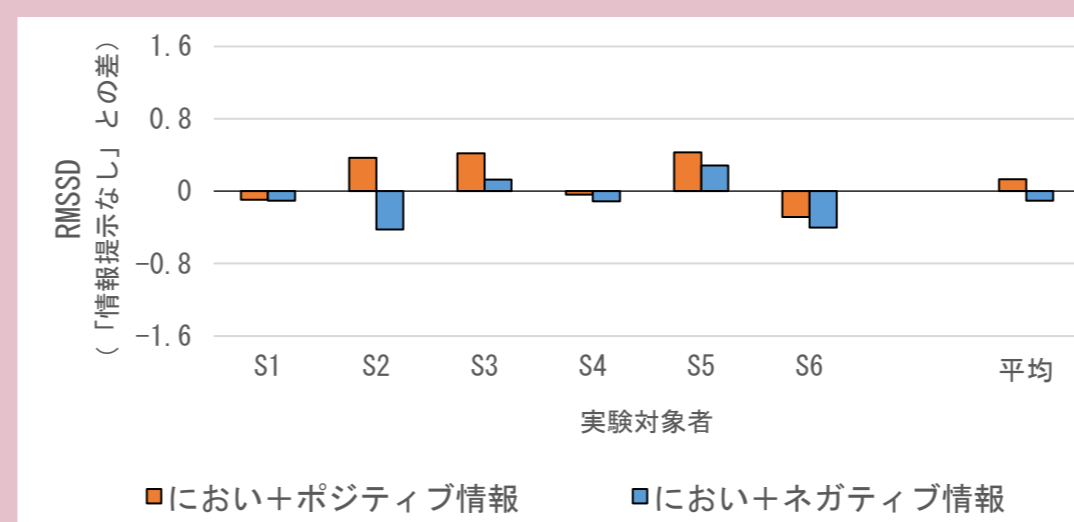
結果

においに対する感情状態 (情報提示なし) (6名の平均)



「グレープフルーツ」 爽快感：高、不安感：低
「キンモクセイ」 リラックス感：高、不安感：低

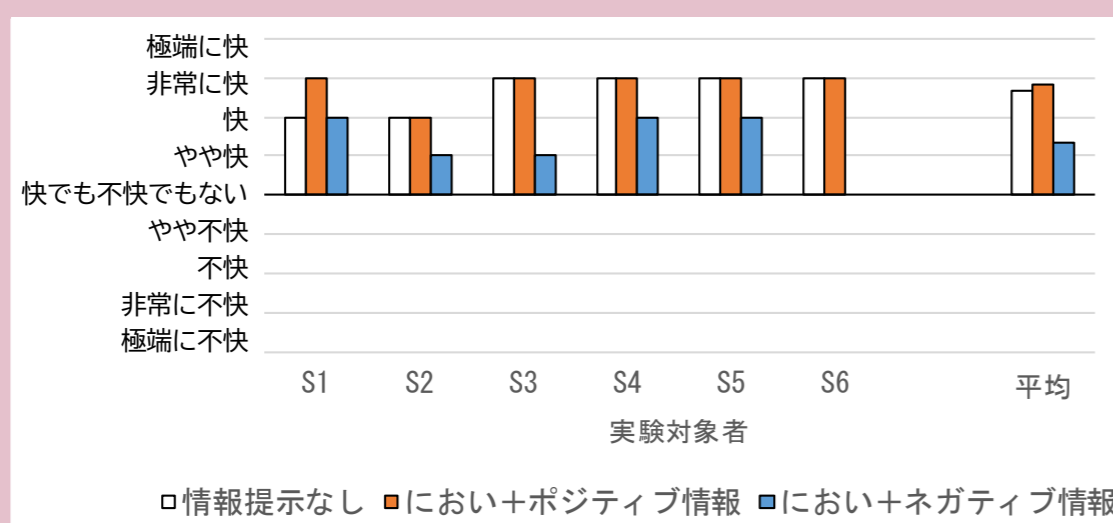
RMSSD：副交感神経活動の指標 (提示なしとの差) 【グレープフルーツ】 【キンモクセイ】



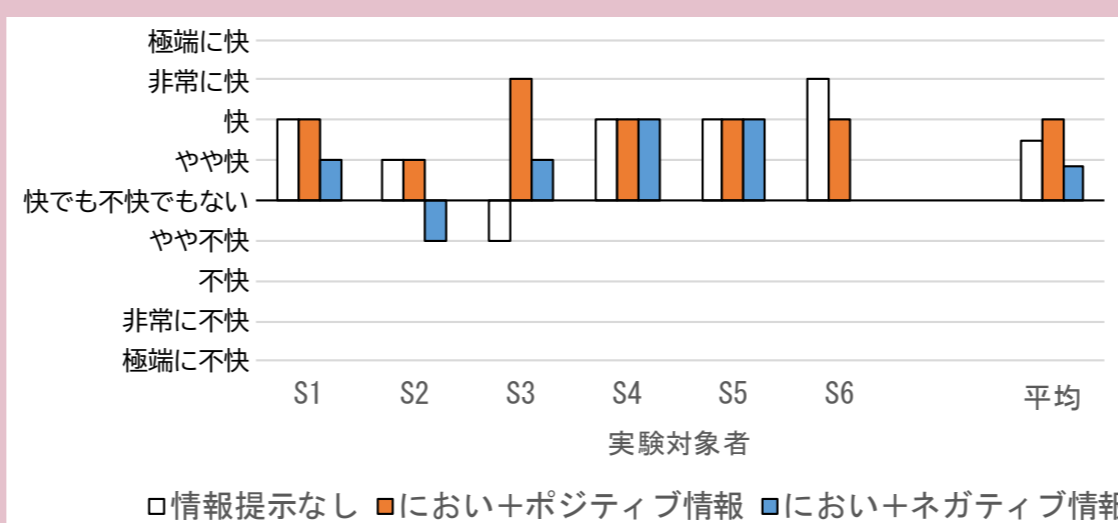
「グレープフルーツ」 ポジティブ情報 > ネガティブ情報
「キンモクセイ」 個人差が大きく、一定の傾向はない

においに対する快・不快度

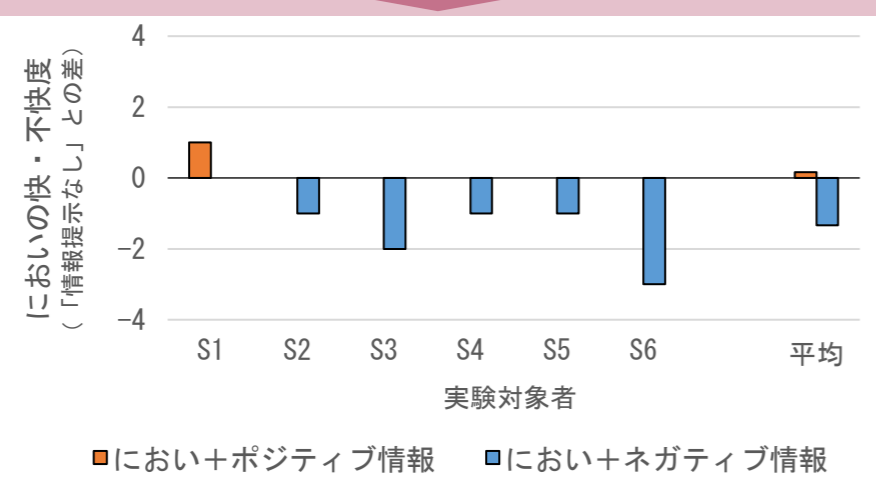
【グレープフルーツ】



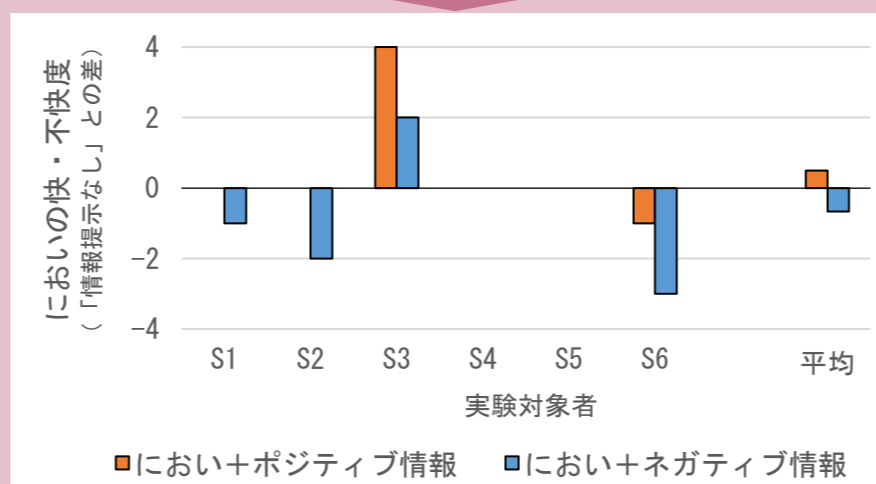
【キンモクセイ】



提示なしとの差



提示なしとの差



情報提示に拘わらず、どちらのにおいも、ほとんどが「やや快適」～「非常に快適」と評価
「グレープフルーツ」 ポジティブ情報：情報なしと同じ、ネガティブ情報：快適感が低下
「キンモクセイ」 6名中4名において、ネガティブ情報：快適感がポジティブより低下

グレープフルーツ

RMSSD： **ポジティブ情報 > ネガティブ情報**

ポジティブ情報+香り：副交感神経活動を亢進

ゆったり、リラックスした気分

キンモクセイ

RMSSD：一定の傾向はみられない

情報+香りの効果：個人差が大

結論

香りの効果

- 嗜好性の高い香り → 快適 → 不安感を弱める
- グレープフルーツ → 爽快感を高める
- キンモクセイ → リラックス感を高める

情報提示の効果

- グレープフルーツの香りは、**ポジティブ情報**を与えると、よりゆったり、リラックスした気分なる
- ネガティブ情報**は、グレープフルーツの香りによる快適感を低下させ、副交感神経活動を抑制する

● 香りは、感情状態を変化させる

● 嗅覚は、視覚情報に左右される場合がある

提言

- ◆ 生産者は商品イメージを正しく伝えるように考慮する
- ◆ 消費者は情報に左右されず行動することが大切